

小学校

第2学年 学級活動(2)(イ)「よりよい人間関係の形成」

▶ 動画「[あたりまえ認定2 こころのアラーム](#)」▶



活動名

こころのアラーム

本時の
めあて

低学年の児童が、友だちとのやりとりの中にある感じ方のちがいや行きがちに気づき、いじめを生まない関係づくりをめざして、人それぞれの受け止め方のちがいを理解しながら、相手を思いやった関わり方を考えようとする態度を育てる。

学習活動

指導上の留意点

事前の活動

導入

展開

終末

- アンケート「自分が言われたら嫌な言葉・うれしかった言葉」に、これまでの経験を振り返り、選択肢から1つずつ選ぶかたちで回答。
(選択肢の例)「かしこいね」「おもしろいね」「かわいいね」「まじめだね」「やればできる」等。
- その言葉を選んだ理由を、書ける場合には書く。

- これまでの友だちとの関わりについて振り返る。

- なぜその言葉を選んだか理由を記入できる場合は事前に調べておくことで、本時の展開を考える際の参考になる。
- アンケートを公開する場合は、個人が特定されない形で共有する。

- 友だちと遊んでいて楽しかったこと、うれしかったことなどを問いかける。

友だちとのよりよいコミュニケーションについて考えよう。

- 動画「[あたりまえ認定2 こころのアラーム](#)」を視聴する。

- 「こころのアラーム」とは何かを考える。

- 自分は「こころのアラーム」を感じたことがあるかを考え、「むにむに作戦」は「大丈夫」か「苦手」かを考え、名前カード(実態に応じて、無記名のシール等)をホワイトボードの「こころの数直線」に貼る。

- 自分がなぜその位置に貼ったのか理由を発表する。

- アンケート結果で出た言葉(例「おもしろいね」)をもとに、言われたら「うれしい」か「うれしくない」か数直線に貼り、理由を話し合う。

- 自分の「こころのアラーム」が鳴ったときに相手にどうやって伝えたらいいか考える。

- 相手の「こころのアラーム」に気づくために、自分にできることはあるかを考える。

- 心のアラームが鳴るタイミングは人によってちがうことを確認し、「伝えること」と「気づこうとすること」の両方が大切であることを共有する。

- 学習を振り返り、これから自分にできることは何かを個人で考えワークシートにまとめる。

- 考えたことをクラスで共有する。

- 必要に応じて、「こころのアラーム」に関するシーンを再度視聴する。

- 感じ方のちがいを数直線上で可視化することで、同じ言動でも受け止め方が異なることに気づけるようにする。

- どちらともいえない場合は、中央に貼ってもよいと伝える。

- アンケート結果をもとに、嫌だと感じる言動は人によってちがうことに気づき、「こころのアラーム」が鳴るタイミングは人によってちがうことを知る。

- 実態に応じて、「自分のこころのアラームが鳴ったときの伝え方」が「相手のこころのアラームに気づくために自分にできること」のどちらか一つを選んで取り上げてもよい。

板書計画例

めあて

友だちとのよりよいコミュニケーションについて考えよう



心のアラームとは？

- なんかいやだなというときに鳴る。
- 人によって鳴るタイミングがちがう。

〈むにむにさくせん〉

にがて



だいじょうぶ

〈おもしろいね〉

うれしくない



うれしい

自分のこころのアラームが鳴ったとき

- こころのアラームが鳴ったから、やめてという。
- 自分はこころのアラームがなりやすいからそのことばは言わないでとつたえる。

これから自分にできることは？

- ことばづかいを気をつけたい。
- 人によってこころのアラームが鳴るタイミングがちがうから、お話するときには気をつけて話したい。